

15

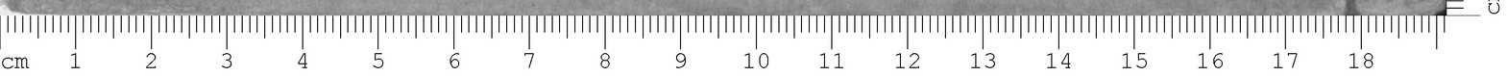


金沢市主産業状況調査報告

養成所

早藤石太郎

一五



A3n-20



金澤市工業状況調査報告

商業教員養成所生徒

早藤石之郎

昭和十年二月七日
学生課 三川寄贈

金澤市工業状況

金澤市。實、北陸第一、大都會。シテ之ヲ全国ニ見ルモ
尚ホ七八位ニ下ラサルベシ然レドモ其ノ所以ノモノ
ハ特ニ高ノ稼ルベキモノアルニモアラズ只タ前田氏百万
石城下昔日、遺香ヲ薫スルアルニ外ナラズ星移リ年更リ
廢藩置縣ノ世トナルニ及ビサラゲダ。定産ナキ同市。其
ノ唯一ノ財源ナル士祿ニ頼ル、ノ悲ニ遇シ轉ニ凋落蕭條
衰枯ヲラサルナキヲ得サリキ故ニ人口ノ如キモ廣島仙臺
ト共ニ漸次衰城ノ傾向ヲ示スニ至リ又茲ニ旅ラカ上之シ
ガ挽回ヲ講シ下之レガ振興ヲ計リ或ハ高野。工。ト斯ク
テ事漸ク其緒ニ着キタレトモ前難ヲ免レテ更ニ後門ノ虎
ニ遇フノ境ニ際シ市民ノ眩暈ヲ懼マセシユト些少ニアラ

ナルナリサレドモ市民一之レヲ貫ク、精神ヲ以テヨク、
其ノ艱ヲ耐エ遂ニ今日ノ状況ニ達セリ

然リ而シテ同市ニ於ケル財源タルハ機業、漆器、陶磁器
ヲ以テ重要ナル産業トス

金澤市ノ機業、主タルハ輸出ニ重ニシテ之レ斯業、古
キ庄大聖寺ノ絹織物ニ胚取スルモノニシテ即チ加賀絹ノ
産セラレシニ因レルモノナリ之レ遂ニ金澤市ニ傳ハリテ
最モ著シク而シテ最モ目覺マシキ進歩ヲガシ以テ今日ニ
至リシモノナリ而シテ機業家、漆器家、信用以テ業ニ從
事シ市中到ル處其ノ柝声ノ漆々タルノ絶工ル所ナシ其組
織・於テ大工場ヲ有シ其概関ニ於テモ即チ同業組合検査
所銀行等皆ヨク整頓セリト雖モ他ト兼業者タルモノモ甚
ナカラズ徑ヒテ概チ小規模ナリサレドモ之レ至濟界ノ發

達ニ伴ハサルベカラサル事ナレバ追々専業者显ハレ大工
場等^運向ヒツ、アルハ實ニ市下亦チ石川縣下ノ為メ
大ニ愛護スベキ事ニシテ甚早ノ全カランコトヲ希望スル
所ナリ

而リ而シテ全市ニ於ケル輸出ニ重ノ産額ヲ示セバ石川
縣下一市六郡ノ産額ハ三十三年度ニテ百九十万圓余リノ
中金澤市ノシニテ百万圓有余ニシテ他ハ六郡ヨリ産額ナ
リト

而シテ大機業家ノ工場組織ニ之レヲ編製シ寄宿工女ヲ收
メテ斯業ニ従事スル主要ナルモノ一ニテ列挙スレバ

- 金澤市上 鹽 匠町 大銀谷機業場
- 中本町三番丁 葵 工場
- 高岡町 興 産社

就中最モ工場の整備セルハ興産社ニシテ右ニ次クハ葵
工場ナリ寄宿工女ハ寄宿舎生活ニシテ小学校ニ入リ跡ヲ
以テ之レニ充テタルアリサレハ稍々見ルベキハ葵工場ノ
寄宿舎ナリ

而シテ單純的ノ家内工場ニアリテハ寄宿工女ヲ使用セル
ハ稀ニシテ多クハ通ヒ工女ヲ用ヒ専娘相扶テ從事セルモ
ナリ

右ノ外出機ト稱スル一種ノ職工使用法アリ之レ機業家ヨ
リ域台ニ賃出シ原料ヲ供給シテ織リ上ケシメ之レニ對シ
テ賃銀ヲ支払フ所ノ一種ノ簡便法ナリ

賃銀、其支払方法、時間拂 仕事高ニヨリ賃銀ヲ支払フ
トニヨリ其間大ニ差異アリサレハ大抵ハ仕事高拂ニシテ
羽ニ重一疋織賃何程ト云フガ如シ是レトテモ製品ノ種類

ニヨリ時々ノ相場ニヨリ同一ナラサレドモ一尺三寸及ビ
一尺五寸ノ幅ニテ一疋全一月十才ニ尺四寸幅物一疋ニ
キ全一月五十才位ナリ

糸繰及ビ管卷工女日給ニ現今最高全才十五才最低十二才
位ニシテ習ヒ子ノ最高八才最低四才位ナリ

工女奨励法ハ種々ノ賞典法アリテ之レガ奨励ヲナシツ
、アリ其年限ノ長短又ハ労働ノ勤勉製品ノ品質良好等ニ
ヨリ之レガ賞奨奨励ヲナシ雇主自ラ之レヲ賞スルアリ或
ハ工場主ヨリ、届出ニヨリテ同業組合長ヨリ之レヲ褒賞
ヲナセルナリ

機業、盛ナルニ從ヒテ練業家、起ルハ必然ノ理ナリ時
羽ニ重ニ練晒ノ手續ヲ経サルヘリテ不然レドモ斯業ノ
幼稚ナル時代ニ於テハ未ダ練業家、純然ナル専業者、生

セザリシユトナレ比現今ニハ練業ノ専業者ナキニアラズ
今同市ニ於ケル主ナル練業家即ケ練屋ト称スルモノハ次
ノ如シ

精練合資會社

小島練工場

伊藤練工場

北精練場

普通練業家ニ自ラ集配人ヲ置キ毎日花主ナル機業家ヲ巡
回シテ製品ヲ集メシメ精練ノ手續了リナバ検査所ニ出シ
テ検査ヲ受ケタル後其機業家ニ送達スルモノナリ
練賃、至リテハ半羽ニ重中一寸大ケ六文ニ付金六厘位ナ
レバ一尺八寸中ナレバ一尺ノ練賃ハ金二十一兩六厘位ナ
リ練業者ハ此ノ練賃ノ外尚ホ検査所、検査料ヲモ徴收ス

之レハ元來機業家カ直接、検査所、支拂フベキモノナレ
ドモ便宜上練業家、元テ機業家、對シテ之レガ轉嫁ヲナ
スニ過ギザルナリ

練業者ニ於ケル精練方法ハ先ヅ糊出シヲナシ次、精練ヲ
ナシ次、乾燥ヲナスニアリテ各練工場ニハ練手ノ傳
集配人尋方業ニシテ練手ハ一人ニシテ十日毎ニ交代セラ
集配人トナルナリ故ニ時ニハ集配人タルコトアリ時ニハ
練手タルコトアリテ練手ノ交代者ハ集配人中ノ手キ、ヲ
以テ之レカ交代ニ充ツルモノナリ

検査所ハ金澤市絹織物検査所ト称シ金澤市高岡町ニ設置
セラル元來、縣立ナラサリシガ現今ハ縣立トナレリ徑ヒ
テ検査料ナドニ於テモ未タ縣立トナラサリシ時代ニ於テ
ハ羽ニ重一尺ニ付金一兩五厘ナリシモ縣立後之レヲ改

メテ羽二重 同類似品ハ一尺ニ付金一才ノ検査料トナセリ
リ検査員ハ検査ヲナスニハ左ノ項目、行ヒテ之ヲナセリ

一、糸質ノ良否

二、組織ノ整否

三、品位ノ適否

四、丈尺ノ長短

五、瑕瑾汚染明切ノ有無

六、織端又ハ織耳ニ綿糸麻糸毛糸若シクハ絹紡績糸ヲ用

ヒタルヤ否ヤ

而シテ合格品ノ等級ヲ尤ノ通りニ決定ス

一等 鶴印

二等 亀印

三等 松印

四等 竹印

斯リ品位等級ノ決定ニ尚ホ品位標本ニ照シテ之レヲナス
ベキモノナリ

漆器業ニ於テハ其美術品タルハ我國中ニテモ有名ナル工
藝品一ニ教ヘラル其沿革ニ至リテハ之ヲ詳ニスルニト
能ハザレドモ今其道ノ人ノ語ル所ニヨレバ今ヨリ殆んど
二百五十年程前美妙院ノ京師ヨリ隣繪師ヲ聘セシニ始マ
レリト又以前既ニ刀鋸ノ鞘ニ漆ヲ施セシニ始スリシモノ
ナリトノ説アレドモ免ニ角當時ニ於テハ唯タ漆ヲ塗物ト
ナセシノシニシテ未タ今日ノ如キ美術品トシテハナカリ
シモノナラン遂ニ明治維新ニ至リテハ塗業トセシモノモ
漸次他ニ轉業シ一時ハ塗業ニ衰微ニアリシガ尚ホ前田氏

ノ漆器ヲ好ムル余リヨリシテ有名ナル漆屋 蔭繪師等ヲ
我即ニ聘シ種々工夫ヲ用テ描繪ヲ施サシムルナドシテ
以テ其ノ氣派ヲ漸クニ保持セシメタリキサレドモ未ダ世
ノ之レガ美術タル漆器ノ評ヲ公ニナス、至ラサリキ唯ダ
前田氏一家ノ重要品タルノ止ニ止リキ次テ塗屋 蔭繪
師、徒弟子孫ニ傳ハリ世ノ各濟界ノ發達ニ伴ハレテ遂ニ
金澤市ニ於ケル一ノ工芸品トナル、至レリ殊ニ海外貿易
ノ起ルニ及ヒテ金澤市ノ盛ニ機業起リテ世ノ美術心ノ
萃シ、從ヒ塗業ノ漆器モ亦爰ニ益々美術タルノ漆器ヲ製
作セルニ至リ以テ機業ト共ニ肩ヲ比ヘテ海外貿易品ノ一
ニ救入ラルル、至リ又爰ニ於テモ漆器業モ大ニ進歩シテ
市中到ル所ニ斯業ノ起ルニ至リ又サレモ當時ハ未ダ交通
ノ機關モ備ハラサルノシカ北國積雪ノ地ナレバ殆セント世

ニ知ラレサリシカド今ヤ北陸鉄道ノ交通機關開通セシ以
來日ニ月ニ之レガ進歩シテ以テ現今ノ状況ニ至リ又
斯リテ今ヤ斯業ノ大ニ進歩セント雖ドモ同市ニ於ケル漆
器ノ普通内國品ニ稀ニシテ多クハ輸出品ノ美術工芸品ノ
製作殊ニ貴重品ノシニアレバ未ダ内地人ニシテ此ノ市
ノ美術品タルヲ知ラシムルニ偏キカラサルノ實ニ惜ムベ
キユトニコソ
斯ノ如キ状況ナレバ從ヒテ斯業ニ至リテ有名ナル美術家
ノ流業業者モ類ハルレドモ同市ノ財源ノ第一ナル機業ニ
於テスデニ前途ノ如キ小規模ニアレバオニノ漆器ニ於テ
勿論大任掛ナムモノモ少ク概テ家内工業ノ如キ有様ニ
シテ其レトテモ尚ホ他ヨリ需用ニ應シテ後々初メテ製作
スルノ有様ナリ且斯業モ未ダ日用品ノ製作ニモアラサレ

バ大仕掛、必要ナキモノトハ雖ハドモ今ノ現今ノ状況ノ
 シニ止スルニトモ得サレバ遠カラズ工場工業ニ至ルナラ
 シ
 斯ク、如ク美術工藝品タレハ亦其ノ業性質上ニ現状ニ
 ルハ止ムヲ得カレユトモアラシ免ニ角現状ニ小規模ナ
 ル家内工業、如ク状況ナレバ亦自ラ描金師、髹師等ノ利
 益タル分業、如クニモアレバ描金師、シテ髹師ヲ兼子又
 髹師ニシテ描金師ヲ兼ヌルモノモナキニアラズ
 今岡市、於ケル描金師及ヒ髹師ノ主ナルヲ列挙スレバ

描金師

金澤市 親音町

澤田政作

大倉町

五十嵐他三郎

上杉原町

河野惣三郎

木町三番町

大垣昌訓

髹師

金澤市 殿町西横丁

鶴田和三郎

上傳島町

米永他四郎

五宝町

和田初太郎

斯クテ家内工業、小規模ニシテ從事セリ
 各家ニ於ケル徒才、多クハ市中ノモノニシテ自家ヨリ通
 ヒ、徒才ニシテ徒才年期、七ケ年ヲ以テ一人前ノ職工タ
 ルトシ得ルモノナリ斯ク小規模ナル家内工業ナルハ徒才
 亦徒ヒテ少ナク一家ニ平均二人余リナル、徒才ノ数ナ
 リ徒才ノ少ナキハ又一ニ小規模ナルニ基原トシ雖亦他
 其ノ所以タルハ徒才年限ノ永キト且ツ其ノ年限中ノ

手當、僅少ナル、コリテ徒オノ志望者少ナキ所以ナ
斯クノ如ク徒オ志望者ノサナキヲ徒オ養成ノ方法、フ
キテ斯業者ハ大ニ講シワ、アリ即ケ徒オハ徒オノ年限中
一ノ貸券ヲダニ得ルコトナカリシガ故ニ徒オ、其ノ年
期ノ永キニ且ツカクノ如ク状況ナリシカバ徒オツ望ム
ノナキノシカハ頭ニ年期中他ニ轉業スルモノ年種々、夕
ニ遂ニ現今ニテハ右年期中後ニ二ケ年ハ其製作品ノ如
何ニヨリテ僅少ナレ比貸銀ヲ貸フルノ止ムラ得サルニ至
リキ然レシナラズ同業者中ニ能テモ右ノ年期中長キニ失
スルトヨリシラ五ケ年ノ年期中縮セントノ既サヘ起ル
ニ至レリ免ニ角後進ノ徒オヲ奮励セシメ以テ斯業ニ従事
セシムルコトニ吸ヒトシテ斯業ノ発達ヲ計ル方法ヲ講ジ
ワ、アルハ大ニ斯業ノタメ慶賀ムベキコトニコソ

今其奨励ノ方法タル一ニヲ列挙スレバ同業者ヲシテ諸方
ノ斯業地ニ派遣視察セシメ或ニ徒オノ製作品ノ品評會ヲ
ドツ設ケ以テ一々之レヲ審査シテ賞與スル等種々改良増
進方法ヲ設ケ徒オヲシテ快ムトシテ斯業ニ従事セシムル
採奨励ヲナシワ、アルナリ
然リ而シテ該事業ナルハ同業者ノ組織ニカ、レル添害同
業組合ニ能ル事業ニシテ毎年少ナクモ二回以上其ノ品
評會等ヲ開設シ一般ニ縦覧ツ許シ賞與式、縣知事等ノ
縣立学校長工業、商業学校長等ノ臨席ヲ請ヒ斯道ノ演説
等ヲ願フノ規定ニシテ歟ヨリシ該事業ノ為メ、年々之ガ
奨励下賜金ヲ下賜セラル
該組合事業ノ入費、毎年五、三百円以外ニシテ之レヲ
組合員中ヨリ賦課徴収シテ之ニ充ツル者ニシテ其賦課法

タル中組合負ヲ其職ニヨリテ上中下ノ三等ニ分テ之レテ
徴收ス爰ニ面白キハ其徴收法ヲスベテ市役所ニ委テ市役
所ニ於テ之レガ徴收ヲナセルナリ組合負トシテハ單ニ漆
器業者ノシテラズ該品ノ売込業者モ組合負ニ加入シテ現
今ニテラニ百戸以上ノ組合負ヲ以テ組織ス中遷居ト称ス
ルモノハ百十戸余 隣郷師ハ八十戸全クナリ
漆器トシテ毎年新出高ノ平均ハ三十五万円余リトス
徒弟製作品ノ品評會ニ於ケル賞品ハ物品ヲ賞味ナルニト
ハ稀ニシテ多クハ金田ヲ以テシ之レテ一等二等三等ニ分
テ一等ニ五円 二等ニ三円 三等ニ一円等ニシテ以テ之
ヲ賞典ス

陶磁器業、至リテハ金澤市ニ於ケルハ町々一ニ九谷焼ト
称スル磁器ニシテ又陶器モナキニシモアテ下然シテ九谷
焼ノ物称タルヤ是レ其汎華ヨリ来タレルモノナリ固元ト
全縣下江沼郡九谷村ニテ焼成セシヨリ世ニ之レヲ九谷焼
ト名稱スルニ至レリ
故ニ同市ニ於ケル陶磁器業ハ其汎華ハ九谷焼ニ基原スル
モ九谷村ニテ焼成セシモノガ漸次金澤市ニ傳ヒリ遂ニ今
日ニテハ全一ニ於ケル工業ノ一トナレリ依リテ現今ニテ
ハ其原料モ全市ニテナキニハアテサレドモ其頃江沼郡能
美郡ノ粘土ニ比スレバ稍々劣等ナルヲ以テ原料ニ多ク右
両郡ヨリ仰ケリ
サレバ今金澤市ニ於ケル陶器業ハ汎華ヲ述ヘンニ先ツ九
谷村ニテ焼成セシ由来ヲ説カン今ヨリ九百四五十年前ニ

大聖寺城主前田利記公田村権九門：余シテ室ヲ築カシ
メ今日ノ素焼ノ如クセノヲ製セシナリキ年号：能ヲハ
或ハ慶安ト云ヒ或ハ義應或ハ明ノ稱スルモノアレドモ
未ダ何ナルノ記録モナケレバ之レヲ詳ニムルコト能ハズ
サレバ是レ即ケ今日ノ九谷焼ノ起レル基タリ次テ萬治初
年ニ二代目前田利明公其ノ遺業ヲ継キ後藤才次郎ナルモ
ノヲ肥前ニ遣ハシ或ハ遠ク支那ニ渡レリトノ説モナキニ
アラズ免ニ角氏ニ七年在リニシテ帰國シ大ニ改良セル所
モアリシガ画工久保守景氏ヲ聘シテ一層陶器ニ工業ヲ興
ヘタリキ守景氏將野氏ノ門弟タリシトカキ文化三年頃ニ
至リ金澤市ノ亀田崑山氏及京都ノ青木末氏ヲ聘シ今ノ
春日山・窯ヲ築カシナシ七年大聖寺町吉田屋傳右門氏
ニ山代・窯ヲ支那ノ交趾風ノ模倣品ヲ製シタリキ次リテ

文政四年ニ至リ能美郡若松ニ於テ前田公噴金ヲ授シテ窯
ヲ始メ肥前ノ人本多貞吉ト云ハル人爰ニ来リ塚本ヲ奈見
シ九谷焼ノ磁器タルモ之ニ於テ製スルニ至リテ天保六年
ニ飯田八郎右門ナルモノモ亦窯ヲ築キ今十一年飯田氏
山氏・景ノ文化ノ頃亀田氏ノ春日山ニ窯ヲ築キ以テ来
微クシテ振ニケルノコト絶ヘントセシヲ爰ニ又其地ニ
再興セシメ之レ亦安政年間ニ至リテ一時絶エヨリシヲ慶
應三年京都ノ人永樂五郎氏来リ遂ニ今日金澤市ニ於
ケル陶器業ヲ起ルリ斯テ明治維新ニ至リ益々改良増進シ
ラ以テ今日ニ至レルナリ
斯クテ同業者ヲ以テ組織セル陶磁器同業組合ナルモノヲ
設ケ徒テテ表成奨励法及事業ノ進歩ヲ計リツ、アルハ漆
器業ニ於ケルト同ノ一ナルヲ以テ其ノ之レヲ思セド

モ唯々異ナレルハ陶器業ノ其業ノ性質上工業的工業ニア
レバ漆器業者ノ如キ家内工業ナル規模ノ少ナシ
然リト云凡職工ノ賃銀ノ低キカ爲メニカ年々職工ノ他ニ
移轉スルノアルハ實ニ斯業ノタメニ大ニ嘆スベキコトニ
コソ

職工ノ賃銀ノ其技術ノ最上ナルハ一人前五十オニシテ以
下之レニ働ヒテ漸次低減スルナリ

然レバ同業者ノ能ラモ亦大ニ之ヲ憂ヒ互ニ相謀リ之レガ
善後策ヲ講ジツ、アリ

今同市ニ於ケル同業者ノ主ナル者ヲ一二列举スレバ

石野亮山

清水美山

念川政行

大桑慶次郎

清水清閑

ニシテ工場ノ数五十而シテ一工場ニ燒釜ノ大小共ニ平
均四個余ヲ有セリ故業者ニ一ニ製作ノシ程事スルノ
コナラズ該店ニ於テ販売スルモラニシテ之レカ自店ニ陳
列セル有様ナリ

製品ヲナスニハ漆器業ニ於ケルト同シク他ノ依頼ニ応ジ
テ製作スルト雖凡陶器ニテアリテハ普通日用品ノ製作ニ重
ナルヲ以テ之レ亦陶器業ト異ナル所トス

